

平成 22 年度 高等学校における学校評価（関係者評価）の結果報告

平成 22 年度に高等学校において実施した学校評価（関係者評価）の結果を報告致します。

■学校評価の実施方法

- 1) 実施時期 平成 23 年 1 月
- 2) 調査対象 高等学校の保護者・生徒（全）
- 3) 評価項目 教育活動全般および学校に対する全体的評価を行いました。
- 4) 評価方法 各項目について、5 段階評価を行いました。
 - 5：その通りである
 - 4：どちらかと言えばその通りである
 - 3：どちらとも言えない
 - 2：どちらかと言えば違う
 - 1：まったく違う

■評価の重点項目

◎評価の重点項目

- ①学習指導の充実
- ②生徒指導の充実
- ③進路指導の充実
- ④人権教育の充実

◎平成 22 年度の学校教育目標

1. 学 習 基本的な学習態度を身につけ、基礎学力の習得・定着を図り、学力の向上を目指す。
2. 生 活 基本的な生活習慣、規律ある態度を養い、集団生活における社会性を身につけさせる。
3. 進 路 将来の進路目標を見つけ、個性を磨き、目標を実現しようと努力する態度を育てる。
4. 人 権 人権意識を高め、周囲の人を尊重し、良い人間関係を築こうとする態度を養う。

■概 評

【関係者評価と自己評価】

この学校評価は保護者・生徒による関係者評価にもとづくものである。関係者による学校評価を行うことによって、学校の教育目標である豊かな人間性を備えた人の育成を目指すための教育内容や指導方法が適切なものであるか振り返り、今後の更なる教育改善に取り組もうとしている。

教員が熱心に意欲的に取り組んでいると自己評価している項目であっても、保護者・生徒が同じように高く評価しているとは限らない。教員に対する質問の回答結果と保護者・生徒のそれとを比較検討してみると、多くの項目において教員は自らの教育を高く評価しており、保護者・生徒はそれより低く評価していることがわかる。私たちはこのことを謙虚に受け止めなければならぬ。

22 年度の教員の自己評価では、特に教科指導・生徒指導・生徒支援（進路指導を含む）・人権教育の分野・項目で評価が高くなっている。この結果は、教員が目標・課題を意識して、熱心に教育に取り組んだことの表れとすることができる。しかし、保護者・生徒の評価はそれほど高くないことから、教員の熱意や意欲が

必ずしも保護者・生徒には浸透していない部分があると言わなければならない。私たちは一層教育内容や指導方法の改善に取り組まなくてはならない。

【重点的な目標と計画】

重点的な目標は、上に掲げた学習・生活・進路・人権の4つの柱である。この4つの教育目標は、自己評価と比べてその数値が関係者評価において低く出た項目である。これらの評価をさらにあげるためには、教科指導や生活指導、学年・学級における指導のあり方を見直し改善して指導にあたらなければならない。指導のあり方により一層の丁寧さやきめ細かさが求められており、具体的な方策を実行していかなければならない。

■アンケートの集計結果とコメント

保護者・生徒への質問項目と集計結果は以下の通りである。

※教員への質問分野・項目は多岐にわたっているが、保護者・生徒と共通する部分で比較・検討した。

番	項 目	保護者	生徒
1	授業は落ち着いた雰囲気の中で分かりやすく教えている	3.3	3.0
2	学力向上のために教科の学習内容を熱心に指導している	3.5	3.2
3	生徒の進路に関する説明会や情報提供がなされている	3.7	3.3
4	学園の短大や大学への進学がある程度保障されていて安心だ	3.8	3.3
5	生徒個々の個性や目標に応じた進路指導が行われている	3.6	3.2

1, 2は教科指導についての評価である。落ち着いた学習環境、分かりやすい指導など、いずれも評価は高くない。基本的な学習態度を身につけさせ、基礎学力がしっかりと定着するようさらに指導の改善が求められる。教員の自己評価では3.7, 4.1となっており、熱心に指導していると言えるが、保護者・生徒はさらにより良い授業を望んでいると受け止めなければならない。

◎教科指導について個々の教員が創意工夫を図るとともに、教科指導法について研修会を持つことを検討する。

3, 4, 5は進路指導についての評価である。保護者はある程度評価しているが十分ではない。生徒の評価はさらに厳しく、将来の目標実現に向けてさらに熱心な指導を求めている。教員は4.3, 4.6, 4.3と高く自己評価しているが、保護者・生徒には十分とは受け止められていないことを反省しなければならない。

◎計画的な進路指導・進路学習を実施するとともに、生徒一人ひとりに対する進路相談を丁寧に実施したい。

番	項 目	保護者	生徒
6	いろいろなクラブ活動・特設科などが活発に行われている	4.1	3.8
7	文化祭・体育会など行事は活発に行われている	4.0	3.5
8	服装・頭髪・持ち物など生活面での規則・ルールは適切である	3.7	3.3
9	生活面での規則・ルールはよく守られている	3.4	3.1
10	学年・クラスでの生活指導はしっかり行われている	3.6	3.3
11	学校での友人関係・友達付き合いは良い	4.0	3.7

6, 7は生徒会活動等の評価である。保護者は高く評価しているが、生徒は必ずしも評価していない。もつと活発な活動や活躍できる機会の提供を望んでいると理解される。教員は4.4と活気のある学校だと評価しているが、より多くの生徒が活躍できる生徒会活動をさらに積極的に支援していく必要がある。

◎生徒間の親睦を深め体験と行動を通して学ぶことの意義を考え、新たな取組みを考えたい。

8, 9, 10は生徒指導の評価である。保護者は学校が生徒指導を十分にやってくれているという所までは評価はしていない。生徒は、生徒指導は自分たちにも大切だと理解し、先生が生徒のために熱心に指導してくれているとは評価していないようだ。教員は4.0, 4.3と熱心に指導していると自己評価しているが、生徒にも熱意が

伝わるよう指導の工夫が求められる。

◎生徒一人ひとりに熱心にかかわり、規律やマナー・社会性を獲得することが大切だということをよく説明して生徒指導にあたりたい。

11 は友人関係の評価である。保護者・生徒とも友人関係はほぼ良好だと受け止められている。教員は人権教育の観点からもより良い人間関係を築くよう指導できていると評価している。

◎周囲の人を尊重し、より良い人間関係と社会を築くことが大切だと教えていきたい。

番	項 目	保護者	生徒
12	生徒は先生を信頼しており先生・生徒の関係は良い	3.7	3.1
13	勉強や進路、個人的な悩みなど先生に相談しやすい	3.5	3.0

12, 13 は生徒と教員の信頼関係の評価である。保護者は教員に対してある程度信頼を寄せてくれているようだが、生徒からの信頼は高くない。生徒からはもっとしっかりと指導してほしいし、生徒の気持ちを受け止めて悩み事などの相談にのってほしいと期待されている。教員は 4.2, 4.3 と生徒に目を向け一人ひとりを大切にしてい対応していると自己評価としているが、生徒の認識と落差がある。心のアンテナをもっと高く感度良く掲げなくてはならない。

◎生徒をよく観察し、理解し、受け止め、ともに考え、課題を解決していこうと心がけたい。そのような意識と態度を身につけるための研修を行いたい。

番	項 目	保護者	生徒
14	学校からの行事予定など連絡事項は家庭によく伝えられている	3.9	3.2
15	学校のトピック・情報はホームページなどでよく伝えられている	3.6	3.2
16	生徒会活動や P T A の活動は活発でよく協力している	3.3	3.3

14, 15 は情報公開の評価である。保護者はある程度評価しているが、生徒は学校の情報発信力は低いと感じている。教員はホームページ等で情報を発信していると 3.9 の評価を与えているが労力の割りに効果的な発信とはなっていないのではないかと振り返る必要がある。

◎生徒が生き生きとした学校生活を送ることがまず大切で、そのことが情報として丁寧に定期的に発信されれば、保護者の学校理解はさらに深まるだろう。

16 は P T A 活動の評価である。これは家庭と学校の連携についての評価でもある。活動であれ生徒指導であれ、家庭と学校の連携は十分ではないと評価されている。生徒指導面では、教員はそのつど家庭と連絡を密に取り合っていると 4.2 の評価だが、家庭との多方面にわたる連携をさらに拡充することが求められている。

◎ P T A 活動は一部の委員にとどまりがちである。他の保護者にも門戸を広げたい。

番	項 目	保護者	生徒
17	フォーマルとインフォーマルの組合せが可能な制服に満足している	3.9	3.7
18	学校の施設・設備は良く整っている	3.9	3.4
19	校内の美化・清掃は行き届いている	3.9	3.3
20	学校の雰囲気は全体的に良いと思う	3.8	3.2
21	学校は楽しく入学してよかったと思う	4.0	3.3
22	この学校は生徒を成長させてくれると思う	3.8	3.2

17, 18, 19, 20 は学校の教育環境全般に対する評価である。保護者は概ね教育環境について満足しているが、生徒の満足度は高くない。これらの項目は教員の自己評価では評価対象とはなっていないが、生徒の満足度が高くなるよう環境の整備に努めたい。学校の雰囲気という言葉は漠然としているが、施設・設備面や人間関係、教育内容など全般的なものを含んでいると捉えている。

◎新しい施設・設備と老朽化としての所の落差がある。施設の改修には経費がかかるが、実現に向けて努力するとともに、日常の環境美化には努めたい。

21, 22は本校の教育に対する総合的な評価である。保護者は概ね満足していただいているが生徒の評価は決して高くない。これらの項目についても教員の自己評価の評価対象とはなっていないが、教員は熱心に教育活動に取り組んでいると自己評価していることから、生徒も高い評価を与えてくれるものと期待している。しかし、実際の評価は高くはない。教員はもっと生徒の中に入り込んで指導し、生徒が自分に自信が持てるよう個性・能力を伸ばし、成長を促さなければならない。

◎保護者・生徒の満足度を高めるためにすべての努力を払わなければならない。教育環境・教育内容・教員の資質向上・進路保障等、教育のすべての分野のたゆまぬ改善・努力が求められる。

■学校運営の改善

関係者評価の結果と自己評価との比較検討を踏まえ、今後の重点的な目標・指導計画、改善方策および学校運営のあり方について以下にまとめた。

1. 今後、重点的に取り組む目標・計画

本校が設定している教育目標は生徒の健全な育成に必要なかつ適切なものと考え、上記の通り引き続き目標として掲げていきたい。それらの教育目標について、一層その成果を上げるための計画および具体的な方策を検討する必要がある。

2. 今後の改善方策

◎学校の重点目標とその実施計画

①学習指導の充実

ア) 教科指導委員会において授業の充実方策や学習指導の計画や目標の設定を行う。

イ) 教科会議において教科指導の充実や指導方法の検討を行う。

②生徒指導の強化

ア) 生徒指導部と学年が連携して、生徒の規範意識を高め規律ある態度を養うよう年間の指導計画を立てる。

イ) 学級において基本的な生活習慣が身につくよう日常的にきめ細かく指導する。

③進路指導の充実

ア) 進路指導部を中心として情報の提供やガイダンスを行い目標の実現を支援する。

イ) 担任を中心として生徒の進路相談を受け目標の設定と実現に向けた助言を行う。

④人権教育体制の充実

ア) 人権教育部において学年ごとの目標を設定し、年間の指導計画を立てる。

イ) 学級において日常的な人権意識の涵養につとめ、計画的な人権指導を実施する。

3. 今後の学校運営のあり方

本校の建学の精神や教育方針を根幹に据えつつ、現在的な教育課題や生徒・保護者のニーズに応えうる充実した教育活動を展開していこうとしている。そのためには保護者等の関係者による学校評価を謙虚に受け止め、常に教育改善に努めていきたい。教育内容を充実させ、教育目標が達成できるよう教育計画を立て、組織を整え、教員の資質の向上に努め、教員間の連携を強化し、学校全体の教育力向上に一層努めていきたいと考えている。